



ココロ躍るアートと癒しの空間～アートトリートメントギャラリー  
 A space of exciting art and healing～Art Treatment Gallery

Opening Exhibition

「MUSE」

2024.3.1 (Fri.) -3.10(Sun.)

岩田圭音、高橋まき子、額賀苑子、福田美菜、ますだ美砂

13:00-19:00 \*月火水 定休日  
 Azur rosé Galerie/台東区池之端3-3-5 ICビル 1F

「アートを身近に感じてもらいたい」「作家さんを応援したい」という想いからスタートした当ギャラリーも、1年間限定のチャレンジショップ「創の実」自由が丘を経て、新天地「根津」に「ココロ躍るアートと癒しの空間～アートトリートメントギャラリー」をテーマにグランドオープンいたします。オープニング展示では、「MUSE」というテーマを作家に投げかけ、それぞれの中にある、あるいはもたらされた「MUSE」を制作いただきました。

岩田圭音、高橋まき子、額賀苑子、福田美菜、ますだ美砂  
 5名の作家から生み出された「MUSE」をお楽しみください。

The gallery, which started out of the desire to "make art accessible" and "support artists," will have its grand opening in the new location of "Nezu" under the theme of "A space of exciting art and healing - art treatment gallery" after the one-year limited challenge store "SOUNOMI" in Jiyugaoka. The opening exhibition will be held at "MUSE".

For the opening exhibition, we have given the theme of "MUSE" to the artists and asked them to create the "MUSE" that they have in their works or that they have brought to us.

Tamane Iwata, Makiko Takahashi, Sonoko Nukaga, Mina Fukuda, Misa Masuda  
 Please enjoy the "MUSE" created by these five artists.

Azur rosé Galerie (アズールロゼギャラリー)  
 〒110-0008 台東区池之端3-3-5 ICビル1F  
 営業時間/13:00~19:00 定休日(予定)/月火水  
 アクセス  
 東京メトロ千代田線「根津駅」から徒歩5分  
 各線「上野駅」から徒歩約12分

【問合せ】

Azur rosé Galerie 中鉢 絵巳(チュウバチ エミ)  
 HP→<https://azurrose.official.ec/>  
 Tel : 080-6866-8879  
 Mail:azurrosegalerie@gmail.com

## ◆岩田圭音◆

### ◇プロフィール

1974年生まれ

多摩美術大学絵画科油画専攻卒業

### ◇個展

2009～2014 銅版画家・作田富幸氏に師事（「版画工房インタリオ」に通う）

2019.10「工房からの風」に出展

以降、東京近郊の企画展等で作品を発表

2022.5 「花とたわむる」ひととてま

2023.10「残心～紡がれた物語」Azur rose Galerie

その他個展、グループ展多数

### ◇ステートメント

「MUSE」に寄せて

「MUSE」ときいて、私の頭にふわりと浮かぶのはポッティチェリの「春」の三美神。ギリシャ神話の三美神は、それぞれ「魅力・美貌・創造力」ですが、私の三美神は「細・小・版」。彼女たちは、どこにでもありそうな木々や植物たちに囲まれて輪舞を踊っています。

人間を含むあらゆる生き物は、常に自然の力をいただいて生きています。その自然の代表格でもある植物たちに敬意を表しつつ、小さな版上で日々ニードルを動かします。

## ◆高橋まき子◆

### ◇プロフィール

1998 蔵野美術大学短期大学部工芸デザイン科卒業

2000 東京ガラス工芸研究所卒業

2010 神奈川県相模原市にSTUDIO BAU GLASS設立

### ◇個展

2007 「高橋まき子ガラス展」ギャラリー・ピーエイブル(東京)

2009(～2013) 「高橋まき子ガラス展」足利ギャラリー (福島)

2013(～2018) 「高橋まき子展Ⅰ～Ⅵ」 arton art gallery (京都)

2019 「高橋まき子ガラス展」ギャラリーEN陶REZ (神戸)

2021 「高橋まき子ガラス展」石川画廊 (東京/銀座)

2023 「風笑う」高橋まき子 個展 ギャラリー蚕室 (東京)

2023 「サレンダー・サラマンダー」ギャラリー・ルヴァン (東京)

その他グループ展多数

### ◇ステートメント

数年前に夢で出逢った美しい人魚の女神。淡い光の花を纏ったその女神は、神々しい姿でありながらもどこか親しみがあり穏やかに微笑んでいました。目が覚めてもその癒しとインスピレーションの高まりは長い間続いていました。あらゆる事象を受容し昇華させ、新たな世界を創造する女神の存在はしなやかであると共に力強くもありました。それは「自らの中心に立ち返る場所」の象徴でもあります。その場所に意識を自由に行き来できるようになった時、人は外側で何が起きようと動じなくなるのだと思います。姿や形は違えど本来誰の心の中心にも存在する穏やかな場所(=立ち返る場所)を思い出すきっかけとなれたら幸いです。

## ◆額賀苑子◆

### ◇プロフィール

1989 神奈川県生まれ

2013 東京藝術大学美術学部彫刻科卒業

2015 東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修士課程卒業

### ◇展示歴、受賞歴等

2011 久米桂一朗賞 受賞

2013 安宅賞 受賞、「New Artists 2013」Gallery Jin Projects(東京)

- 2014 「Art jam 2014」 Gallery Jin Projects(東京)  
 2015 アートアワードトーキョー丸の内 審査員:建島哲賞 受賞、杜賞 受賞  
 「ジ・アートフェア +プリュス - ウルトラ 2015」 スパイラルガーデン(東京)  
 「人像 Part.1 Form 〈形態〉須崎祐次×額賀苑子」 エモン・フォトギャラリー(東京)  
 「Duet series vol.3 額賀苑子・天明里奈二人展」 Gallery Jin Projects(東京)  
 2016 個展「not clear」 Gallery Jin Projects(東京)  
 2018 「九転十起生 - 広岡浅子像」大同生命保険株式会社 大阪本社ビル(大阪)  
 「陶×藝×術」 FEI ART MUSEUM YOKOHAMA(神奈川)  
 2019 「内包された温度」東京藝術大学大学美術館(東京)  
 個展「紗のむこう」Hideharu Fukasaku Gallery Roppongi(東京)  
 2020 TAGBOARD AWARD 特別審査員賞 小山登美夫賞 受賞  
 2021 個展「景色の手ざわり」石川画廊 (東京)  
 2022 北村早紀、額賀苑子二人展「&NBSP;」 MIDORI.so 馬喰横山(東京)  
 Sonoko Nukaga solo exhibition「鏡の膜」ART FOR THOUGHT (東京)  
 2023 Sonoko Nukaga solo exhibition「かげの質量」Azur rosé Galerie (東京)  
 その他グループ展多数

#### ◇ステートメント

古の物語の登場人物と同じ地平に立つには

古い物語や、昔の人が使っていたもの、作ったものと対峙する時、自分が立っている地平と別の世界を想像する。物語もふるい物も、彼らが生まれた時から一度も潰えることなく存在し続けて、いま私の眼前までたどり着いたというのに。

ふるい物や情報との間に感じる断絶の正体は何なのか。長い時間をかけて少しずつ変容してきたであろう彼らの形によるものなのか、それとも、文明という強い光源で照らされて見えなくなってしまった私の想像力のせいなのか。彫刻という重く遅い視覚メディアを用いて、ふるい物と私たちの間にある、断絶とつながりを再考することを試みができるのではないかと考えた。神話や昔話に登場する人々と同じ地平に立つために。

### ◆福田美菜◆

#### ◇プロフィール

- 1991 東京生まれ  
 2014 東洋美術学校絵画科研究生 修了  
 日本版画協会準会員 (2024年現在)

#### ◇展示歴、受賞歴等

- 2012 日本版画協会展 (以後毎年出品)  
 2013 南島原セミナーヨ版画展/長崎 (入賞)  
 losif Iser International Contemporary Print Biennial/ルーマニア (優秀賞)  
 Ural Print Triennial/ロシア (マスター賞)  
 2014 Biennial of Small Forms of Graphic and Ex-libris/ポーランド (入賞)  
 2017 CWA J 現代版画展/東京 ('18, '23)  
 2018 Mezzotint Exhibition 世界で50人のメゾチント作家展/インド Bihar Museum  
 2021 International Contemporary Engraving Biennial N-E/ルーマニア (名誉賞)

#### ◆個展

- 2018 個展 (珈琲&ギャラリーウィリアムモリス)  
 2020 個展 (ギャラリーヴィヴァン)  
 2021 個展 (平八郎ミュージアム)  
 その他グループ展多数

#### ◇ステートメント

Museというと、一般的にはギリシャ神話における芸術や学問をつかさどる9人の女神を彷彿させます。一方、動詞としては、熟考する、思いめぐらすといった意味もあるようです。

わたしは基本的に銅版画を中心に制作しており、タブロー作品でも版画を刷ったものをコラージュしたり、そこに自在に着彩をしたりといった方法で制作しています。モノクロームの版画作品もあれば、鮮やかな色彩のタブロー

作品もありますが、常に作品の根底にあるのは、“いま、ここ、現在地での自分”と“現代という時代”とのギャップや、日常的に自分なりに感じているいまを生きている感覚です。

制作している時間、わたしは版画とタブロー、モノクロームと色彩、具象と抽象といった異なる要素のなかを行ったり来たり、まさに思いを巡らせて、結果いつの間にか作品は仕上がっています。

世界で様々な諍いや不寛容さが蔓延するなかで、個人がこころの平和をきちんと抱えて過ごすことが昨今求められています。美術のみならず、芸術作品にふれることがその手助けとなれば幸いです。

## ◆ますだ美砂◆

### ◇プロフィール

東京都出身、在住。

もともと作詞や小説など言葉を用いた作品を発表。

2006年講談社第19回MANGA OPENにて短編小説が奨励賞受賞。その後、空間的、視覚的に表現したものを届けたい思いが強くなり作品制作を始める。2024年からART@JUNGLEプロジェクトARTユニット<@アーティストになろう>に参加。

### ◇展示歴、受賞歴等

#### ◆個展

2015 ドラードギャラリー（東京）

2016 アトリエ・リーシェ（東京）

2021 ART POINT GALLERY（東京）

2023 space\_yuu(instagram)

#### ◆公募展・企画展

2014 ドラード・サマーアートフェス 大賞受賞（ドラードギャラリー、東京）

2017～2019 創作表現者展 特別賞連続受賞（ドラードギャラリー、東京）

2018 サクラピンク展（MDPギャラリー、東京）、ランドスケープ展（Gallery Blau Katze、大阪）  
ACT ART COM（The Artcomplex Center of Tokyo、東京）

2019～2020,2023 Independent TOKYO（タグポート、東京）

2020 SelectionIII（ART POINT GALLERY、東京）、Only One展（Gallery Blau Katze、大阪）

2021 3331 ART FAIR 選抜作家展（GALLERY AND LINKS 81、東京）

2022 POINT展（GALLERY AND LINKS 81、東京）、Moon Light Exhibition（Gallery うえすと、東京）  
WHAT CAFE EXHIBITION BLUE & RED(寺田倉庫WHAT CAFE、東京)

Just Chilling（Gallery うえすと、東京）

2023 ふわり春展(Gallery螺、大阪)

2024 アーティストになろう2024@松坂屋上野店

#### ◆アートフェア

2021 ART EXPO NEW YORK（Gallery EDEL）、3331 ART FAIR（GALLERY AND LINKS 81）

2022 ART SANTA FE（Gallery EDEL）

2023 ART FAIR ASIA FUKUOKA(Gallery螺)

### <ステートメント>

私の作品は和紙で花を造形し、パネルに接着し彩色しています。こうして平面上に立体の造形を組み合わせることで、作品の実在と他者との「今」を共有する一期一会を作り出します。

それは茶の湯における内心の美を求める制約ある場がもたらす出会いに着想を得ており、私は作品という制限ある空間の中で日本文化のこの文脈を更に押し広げながら、利休七則の「花は野にあるように」本質は何かを追求し、あるがままの豊かさについて自由に創造していきたいと思っています。

私は子どもの頃から集団に漂う無言の制約としての「空気」に漠然とした違和感を抱いていました。現代は情報に溢れ、人々は同調圧力の空気の中で社会の背景と化してしまう。私がアートで目指すものは、作品を通して個々が心を解放し、尊厳を見つめること。これは社会の「空気」に対してのレジスタンスでもあり、私からの問いかけでもあります。